市長と語ろう！ほっとおしゃべり会@富田公民館　結果概要

日　時　令和８年１０月３０日（金）午後７時～８時
場　所　富田公民館
参加者　市民　３名

結果概要
１　あいさつ（市長）

２　趣旨説明（竹田室長）

３　災害時の避難行動と新たな気象情報について説明（市長）

４　意見交換（フリートーク）
①災害関連について
参加者：この辺は雪が多いので除雪が大変だと思うが、スムーズに早朝に道を空けていただけるとありがたい。土砂災害は山間地が多い。刈込池までの県道や、国道１５７号の中島公園に行く道について、観光にも影響があるので、なるべく早く復旧していただきたい。
参加者：私が住んでいるところは、雨による被害は起きない場所であり安全であるが、地震はいつ起きるは分からないので、地震に対する心構えは常に考えている。
市長の説明で、夜でも警報を出すと説明があったが、あえてその話をされるということは、夜に警報を出すことが市民に浸透していないということか。危険な状況であるなら、夜中であろうと警報を出さなければいけないと思う。
また、災害復旧について、国道１５８号の崩れた箇所は早く復旧させるべきだと思う。昨年の和泉地区で国道１５８号が崩れたときも思ったが、市民が稼ぎに市外に通勤したり、物流で利益を上げたりしている人がいて、その人たちが納めている税金で市は成り立っていると思うので、国の事業や県の事業であったとしても、市は早く復旧させるという使命を持つべきだと思う。
市長：安心安全の話題をいただきありがたい。
除雪については、皆さんがおっしゃるとおり、道路をスムーズに通行できるようにすることが大切。市としても、毎年、前年の反省点や改善点を持ち寄りながら取り組んでいる。私が大野に来てからもう２０年ほどになるが、その頃と比べると、除雪はかなりきれいにしてくれるようになったと思う。それでも、毎年、除雪については同じような課題が出てくる。
通勤時間帯に間に合うように作業してくれている。引き続き努めていきたい。以前は午前２時半頃から出動すれば大体対応できていたが、最近は雪の降り方が変わってきており、去年も一昨年も、午前１時頃から出動しているが、また積もってし

まい、現場は苦労している。作業員は頑張っているので、どうか温かい目で見ていただければと思う。
道路の災害復旧について、まず国道１５８号は、岐阜県境付近で災害があり、現在は迂回路ができている。当時の杉本知事も相当頑張ってくださった。中部縦貫自動車道の工事関係者の方々にも、いろいろと気を遣っていただいた。ただ、今の橋は仮設の橋であり、これから本復旧に向けて進めていくことになる。本復旧までは数年かかると言われている。今の道路がきれいなので、このままでよいのではないかと思いたくなるが、仮設の橋であるため、１０年、２０年と使えるものではない。これから工事に入る段取りをしてくださっている。
国道１５７号の中島付近については、４月２日に災害が発生し、私も翌日に現地を視察し、県にもすぐに復旧要望に行った。崩れた土砂はすでに撤去されているとのことであるが、崖崩れの土地の所有者が１００人以上おり、現在用地関係の調整が必要になっている。
国道１５８号のトンネルの復旧についても、石田知事が早い段階で現地を視察していただいた。現在は、朝の通勤時間帯と夕方以降は片側通行とし、日中は全面通行止めにして復旧工事を進めている。
刈込池へ向かう道路は、雪解け水の影響で善五郎橋が流されてしまい、復旧に時間がかかっている。今年度中には何とか復旧できるのではないかという話を聞いているが、長く一般の方が入れない状態だったため、復旧した後も周辺の整備が必要となる。その辺りの整備も進めて、次の紅葉シーズンには何とか間に合うように頑張っていきたいと思っている。関心を持っていただけると、私も頑張れるのでありがたい。

②山岳道路の構造や街路樹について

参加者：国道１５８号やこぶし通りの街路樹について、剪定や草刈りなどの維持費を相当掛けているのではないかと思う。街路樹を無くして更地にして、コンクリートやアスファルトで舗装すればよいのではないか。歩道と車道を縁石で分けているが、歩道を縁石の高さにして、車道と分けたほうが、除雪がやりやすいのではないか。
ほとんどの山岳道路（林道など）で山側に側溝を設けているが、１年経たないうちに土砂で埋まってしまう。側溝を無くせば掃除をしなくて済むし、工事費も安くなる。最初から側溝を無くして、山側を高くして、谷側を低くすることで、雨水は自然に流れていく。

市長：そのような工法にするのに、安全施工のための規則などがあるか、今ここでは分からないため確認する。
街路樹については、最近は少しずつ考え方が変わってきていると思う。以前は道路の景観などを目的に街路樹を植えてきたのだが、植えてから３０年ほど経過して、木が老木化している。幹の中が空洞化しているものもあり、市内でも２年ほど

前に倒木があった。そのため、樹木の空洞調査などを行い、倒木のおそれがあるものについては伐採して安全を確保している。街路樹の下の土の部分も埋めていくようにしている。全国的には無くしていく方向になっているが、街路樹を残してほしいという意見もある。

③空き家対策について

参加者：うちの地区には空き家が今２件ほどある。一人暮らしの家なども含めると、今後も空き家が増えていくのではないかと思う。ほかの地区では、空き家についてどのように対応しているのか。

参加者：私の住んでいるところにも空き家はある。ただ、関係者が草刈りをしたり、枝を落としたりしてくれているので、周りで困っているということはあまりない。草木が伸びてきたら、空き家の隣人が関係者に連絡して、草刈りなどをお願いしていることもある。ただ、地区として組織的に何かをしているかというと、特にやっていないのではないかと思う。

参加者：うちの地区では、屋根の半分が落ちてしまって、もう倒壊寸前のような家もある。風が吹くとトタンなどが飛んできて、畑や田んぼに飛んでくることもある。これから、そういう空き家がどんどん増えていくのではないかと思い不安である。

参加者：私自身も、将来そうなる可能性があると思って心配しており、どうしていけばいいか悩んでいる。どう子どもに伝えていくか、今後の大きな課題であると認識している。

市長：空き家の問題は、市内の各地区で悩まれている。私が市長になる前から、地域の課題になっており、もう１５年以上前になるが議員立法によって市の条例ができたほど。当時は、１件１件の家がぼろぼろになって危険な空き家になっていたので、それをどうするかが課題であった。ただ、今は皆さんがおっしゃったように、予備軍が多くなってきている。１０年ほど前からまだ使える空き家については、中古住宅として次の人に引き継いでいこうという取り組みを進めている。空き家というと何となく寂しいイメージがあるが、まだ使える住宅なので、中古住宅としてほかの人に渡していこうという取り組みを始めた。県内では、美浜町に続いて２番目に早い動きであったと思う。今は、空き家バンクへの登録を進めている。移住や定住を希望する若い方などが、登録された物件を見て購入されることもある。また、ゴールデンウイークやお盆など、帰省される方が多い時期に、年３回ほど空き家や移住に関する相談会を開催している。帰省された方に空き家バンクへの登録をお願いしたり、住宅の引き継ぎについて相談したりしている。ただ、家の中に家財道具がたくさん残っていると売れない。家財道具の処分を手助けしたり、遠方に住んでいる所有者に代わって草刈りや見回りをしてくれる管理代行サービスの費用を支援したりしている。今ある住宅が悪くなる前に、次の人に渡していくということを一生懸命進めている。民間でも、空き家を見つけてリノベーションし、若い家族などに提供している人がいる。空き家は個人所有物の

ため、行政が勝手に手を出すことはできない。宅地建物取引業者などに間に入っていただいたり、所有者の了解を取ったりしながら進めている。危険な空き家については、通学路に面していて子どもたちに危険が及ぶおそれがある場合や、隣の家に倒れかかっているような場合など、周囲への影響が大きいものを危険空き家として認定している。建築や法律の専門家にも入ってもらい、所有者の方に空き家の改善や撤去を検討していただくよう働きかけをしている。昨年度も今年度も、数件ずつではあるが、撤去につながったところがあるので根気強く取り組んでいく。ただ、土地と建物の所有者が違う場合や、所有者の所在が不明な場合など、難しい案件もある。そうした場合は、弁護士や法務局にも助言をいただきながら進めている。行政が介入するのは難しい。地区の皆さんにもお願いしている。例えば、今住んでいる家から引っ越すというときには、所有者の連絡先を地区で把握しておいていただきたいということ。先日の区長会でも、そうしたことをお願いした。住まなくなる前に、その家を今後どうするのか、残された家をどうしていくのかということも考えていただきたい。空き家は古くて新しい課題。人様の所有物なので難しい部分もあるが、情報を寄せていただけるとありがたい。

参加者：更地にすると固定資産税が高くなるので、意図的に建物をそのまま残している人がいると聞いたことがある。その理由で建物を残している人もいるのではないか。

市長：その通りであり、建物を撤去すると、地面がいろいろな用途で使えると算定されるため、そのまま残している事例もある。ただ、建物がぼろぼろになって隣の家などに被害を与えてしまうと、今度は損害賠償の問題にもなる。そうならないために何とか撤去につなげようと頑張っている。難しい案件になる前に、まだ使える家を次の人に渡すことが大切で、身近に悩んでいる人がいたら、空き家バンクへの登録を伝えていただけるとありがたい。

④今後の移動手段と地域公共交通について

参加者：私自身、これからの移動手段について心配している。今日もここまで来ることができたが、いずれ車を運転できなくなるときが来る。そうなったときの移動手段として、今、乗り合いタクシーなどがあるので、ずっと継続していただけるとありがたい。夜は運行できない、休日は運行しない、予約しなければならないなど、いろいろな制限があっても、それは費用との兼ね合いもあるので、ある程度は仕方がないと思っている。現在のような仕組みをできるだけ残していただきたい。大野市立地適正化計画では、集約型のまちづくりという考え方があり、集落はそのまま残しながら、中心市街地と地域生活拠点を設けるという内容になっている。ただ、資料の図を見ると、移動手段について、集落から中心市街地へ行く手段がないように見える。これはイメージ図なので、実際にはきちんと考えられているのかもしれないが、見た感じでは、私の住んでいるところから中心市街地につながる線がない。このままだと、集落から中心市街地へ行く手段がなくなってしまうのでは

ないかと心配になった。
市長：どこに記載してある資料か。
参加者：101 ページである。
市長：乗合タクシーからまちなか循環バスに乗り換えるという形であるため、中心市街地へ行けないという訳ではない。現在も乗合タクシーは、公民館などを経由しながらまちの方へ向かっているので、集落から中心市街地へ移動できるようになっている。大野市は昭和の合併前の旧町村ごとに、コミュニティや文化圏が今も形成されていることから、昔の村役場があった場所などが、その地域の中心になっている。そこに必要な機能を整えながら、大野市全体のまちづくりを進めていくという考え方。移動手段については、皆さん心配されていることだと思う。空き家の問題と同じように、地域公共交通も共通の心配事ということはよく分かる。
参加者：今後歳を取っていくと、移動手段が無くなることが一番心配なので、よろしくお願いしたい。

⑤高地トレーニングを活用したアスリートの育成について
参加者：ワールドカップやオリンピックに出場するようなトップアスリートを大野市から育ててほしいという提案がある。唐突な話かもしれないが、高地トレーニングをすると心肺機能が高まると聞いている。ただ、一般の人がいきなり標高 2,000 メートル級の場所に行くには、高度順応に時間がかかる。トップアスリートはスポンサーが付いているので、海外に行ってトレーニングすることもできるが、高校生や中学生たちには費用を負担することは難しい。ある大学のスポーツセミナーで、標高 1,000 メートルの場所で高地トレーニングをすると、心肺機能が高まるという話を聞いた。そこで、私が考えているのが、銀杏峰にある極楽平である。極楽平には、運動場のような施設はないが、500 メートルほどの周回コースがある。そこまで行くための新しいルートも整備され、現在は徒歩で最短で１時間２０分ほどで行けるようになっている。小学校高学年でも安全に行けるようにしたいと思っている。まだ整備の途中であるが、周回コースの 500 メートルほどの区間に防草シートなどを張ればランニングしやすくなると思う。ほかに野球部など、いろいろな部活動の生徒が１時間ほどかけて現地まで行き、１５周、１６周と走って戻ってくるだけでも、相当なトレーニングになると思う。大きな費用を掛けなくてもできると思うので考えていただきたい。今日明日にすぐ結果が出るという話ではないが、将来を見据えて、大野市からトップアスリートを育てたいと思っている。
市長：夢のある話である。ほかの参加者から感想はないか。
参加者：車で行けるところなのか。
参加者：行けない。それ以外にも、銀杏峰にはナメコやヒラタケ、ムキタケなどのキノコがたくさん生えたり、オオヤマレンゲという花が咲き誇ったりする。オオヤ

マレンゲを見に来るバスツアーもある。
雪山登山も人気であり、冬には車が１００台以上来ることもある。
市長：防草シートを渡すと整備してくださるということか。
参加者：お願いしたい。

5　閉会